

平成26年 2月

三好陽子 学位論文審査要旨

主 査 萩 野 浩
副主査 兼 子 幸 一
同 吉 岡 伸 一

主論文

外来通院中の血液透析患者の生きがいに関連する要因

(著者：三好陽子、吉岡伸一)

平成26年 米子医学雑誌 65巻 19頁～27頁

参考論文

1. 血液透析患者の気分状態に影響を与える要因

(著者：三好陽子、吉岡伸一)

平成25年 米子医学雑誌 64巻 115頁～122頁

学 位 論 文 要 旨

外来通院中の血液透析患者の生きがいに関連する要因

透析患者数や長期透析例が増加し、高齢化が進む透析医療において、その人なりの生き方を尊重し、患者の自立や生きがいを支援することは重要な課題である。透析患者は、透析機器や医療関係者に依存しなければ生きていくことができないため、日常生活や就業が著しく制限され、経済的にも不安定で、生きがいを見失う場合が多い。そこで今回、外来通院中の透析患者を対象に、社会的背景、身体的要因に加え、日常の生活機能が生きがいにもどのように関連しているかについて調査した。

方 法

対象は、山陰地方の透析医療を行っている2施設で、2011年7月から10月にかけて慢性腎不全のため透析を受けている外来通院患者147名である。調査票の内容は、対象者の性、年齢、透析開始年齢、透析歴のほか、社会的背景として、就業の有無、婚姻状況、子供や趣味の有無、学歴、生活状況について、身体的状況として、治療中の糖尿病と心臓病の有無、体を感じる痛みの有無について調査した。日常の生活機能は老研式活動能力指標（以下、老研式）を用い、また、生きがいはPGCモラル・スケール（Philadelphia Geriatric Center Morale Scale：以下、PGC）を用いて評価し、統計学的分析を行った。

結 果

対象者は、147人（男性85人、女性60人、無回答2人）で、年齢は 61.0 ± 11.9 歳、透析開始年齢は 51.8 ± 15.3 歳、透析歴は 8.8 ± 7.9 年であった。社会的背景について、就業なしは53.8%、既婚68.7%と最も多く、子供あり、「趣味あり」が半数以上であった。学歴は、高卒が最も多く、また、生活状況は、「心配なし」が半数以上を占めた。身体的要因について、「糖尿病あり」が25.2%、「心臓病あり」が14.3%で、「疼痛あり」が半数以上を占めた。PGC総得点と社会的背景の関係では、生活状況の「心配なし」が「心配あり」より有意に高得点で、身体的要因に関しては、「心臓病なし」が「心臓病あり」より、また「疼痛なし」が「疼痛あり」より有意に高得点であった。PGC下位因子の「孤独感・不満足感」については、社会的背景の「就業あり」が「就業なし」より、また「趣味あり」が「趣味なし」より有意に高得点であった。PGC総得点は、老研式の総得点及び下位因子得

点全てとの間に正の相関を示した。また、PGC 下位因子の「心理的動揺」は、「手段的自立」、「社会的役割」と、「孤独・不満足感」は、老研式の3つの下位尺度全てと、「老いに対する態度」は、「知的能動性」、「社会的役割」と正の相関があった。さらに、年齢と「老いに対する態度」との間には負の相関が認められた。

考 察

本研究の対象者の PGC 総得点は非透析患者に比べて低く、透析患者の生きがいは低下していると考えられた。また、透析患者の PGC 総得点及び下位因子全てにおいて、経済状況で「心配なし」の人に比べて「心配あり」の人の得点が低く、生活充実感や生きる意欲と経済的安定が関連することが示唆された。透析が一旦始まると、長期に渡り治療が必要となる。そのため、経済的な安定は、透析患者の生きがいを高めることに関連すると考えられる。また、身体的要因に関しては、心臓病という生命維持に直結する疾患を抱えること、また痛みをもちながら透析生活を続けることが生きがいに影響することが示唆された。

社会的背景に関しては、生活状況のほかに、職業や趣味を持つことも、生きがいに関連することが示唆された。さらに、PGC モラル・スケールと老研式活動能力指標との関係から、生活機能が生きがいに関連し、なかでも社会的役割と強く関連していた。すなわち、社会活動性が高く、自分自身の老化を受容している患者は、自身の状況を受け入れ、社会との関わりを保ちながら生活していると考えられる。また、家族や友人との行き来があり、孤独を感じるものが少なく、生きている喜びを感じ、生活に満足している患者ほど、社会活動性が高いことが示唆された。透析患者は、生命を維持するために、終生、透析機器や医療関係者に依存して生活しなければならない。そのため、生活機能、なかでも社会的役割が生きがいと関連したと考えられる。

結 論

透析患者の生きがいには、就業や生活のゆとり、趣味などの社会的背景、心臓病・痛みなどの身体的要因のほかに、生活機能や年齢が関連することが示唆された。透析に従事する医療者には、透析患者のライフサイクルを考えながら、生きがいを低下させ、また、生活機能を阻害する可能性のある要因を取り除き、患者の生きがいを維持・向上できるように支援していくことが求められる。